Bブロックの「**確率**」ベスト3です。

理系びとであることの真髓が今問われる!?

あなたなら、どの作品を推しますか。

そして東工大生が1位に選んだのは…?

答えは作品のあとの**講評**にてどうぞ。

我が人生で学んだこと

当てにしない 降水確率なんか当てにしない

こいつが四十%のとき判断に困る

当てにしない 目覚まし時計なんか当てにしない

こいつに心を許すと痛い目にあう

当てにしない 携帯電話なんか当てにしない

こいつは肝心なときに役立たない

当てにしない 英語なんか当てにしない

こいつがなくてもポディーランゲージでどうにかする

当てにしない 「まだまだ続く」なんか当てにしない

こいつは平気で嘘をつく

当てにしない 「友達から聞いた話」なんか当てにしない

こいつの話には信憑性が感じられない

当てにしない 「全然できなかったから」なんか当てにしない

こいつは心の中で笑っているに違いない

当てにしない 「誰にも言わないから」なんか当てにしない

こいつに話したのが運のつき

当てにしない 「今売れてます」なんか当てにしない

こいつの半分は在庫処理でできている

当てにしない 携帯のストラップなんか当てにしない

こいつは突然いなくなる

当てにしない 野口英世なんか当てにしない

こいつはいつのまにか財布から消えている

当てにしない ヨッシーなんか当てにしない

こいつは城の中までついてきてくれない

当てにしない ドラえもんなんか当てにしない

こいつを夢見て何度引き出しを開けたことか

当てにしない 「ちよっと待ってて」なんか当てにしない

こいつの「ちよっと」は「ちよっと」じゃない

当てにしない 「ちよっと待ってて」なんか当てにしない

こいつの後には「もう少し待って」が待っている

当てにしない 「もう少し待って」なんか当てにしない

こいつの後には「ごめん あとちよっと」が待っている

当てにしない こいつらなんか当てにしない

五分の一の殺人

六月九日。僕は今日、五分の一の確率で殺人者となる。

いつも通り朝食を食べ、いつも通り家族に見送られ出勤した。「いつも通り」が壊れたのは、午前八時を回った辺りだったろうか——そう、同僚から唐突に仕事の交代を告げられた時だ——指定された部屋に向くと、そこには僕の上司である保安課長の姿があった。

その感情を押し殺した顔を見て、「ああ、つまりそういうことなのか」と悟る僕と「いや、まだ勘違いもあり得る」と抵抗する僕が生み出された、その瞬間。

「君には、死刑執行人となつてもらおう」

保安課長が、短く告げた。

ああ、とうとう来たか、という諦めにも似た覚悟と、何故僕が、という憤怒にも似た戸惑いがない交ぜになつて、頭が渦を巻いていく。

そこからの事はあまりよく覚えていない。

気付いた時には、ボタンの前にいた。僕と同じように選ばれた五人の殺人者候補と、それぞれの前に配置された五つのボタン。五つのうちどれかが「当たり」だ。押した瞬間、死刑囚を支えている床が消え失せ、ロープ一本で死刑囚の体をぶら下げる事になる。

ゴクリ、と誰かが唾を飲む音が聞こえた。いやそれとも自分の音か。じつとりと湿った手が気持ち悪い。一度開けばいいのだが、僕の手は固まってしまったように動かない。

ふう、と息を吐いた。無機質なコンクリで固められたこの部屋は刑場とは完全に区切られており、自分たちが殺す相手の様子を窺い知る事は出来ない。その事に、少しだけほっとする。

死ぬ間際に、懇願の目でこちらを見られたりしたら——

僕は、どうなるだろう——？

ブー、という無機質なブザー音が僕の思考を現実に戻した。死刑執行の合図。

一瞬の逡巡の後、僕たちは——ボタンを、押す。

その後、今回の執行に関わった職員達で昼食を食べに行つた。食べたのはどんかつ定食と缶ビール。無言で咀嚼する僕たちの手元には、同じ封筒が置いてある。

表には無機質な字で「死刑執行手当て」——そう、書かれていた。

現金で二万円。これが、殺人者となる見返りか——そう考えると、「殺人」という響きが現実味を帯びてきて、ぶるると震えた。

六月九日。僕は今日、五分の一の確率で殺人者となつた。

もしも違う運命なら

暗い部屋。泥のように重たい空気の中、一本のろうそくの光が頼りなさげに揺れている。

その部屋の中央。彼は白い箱の前に座り込み、その広い肩をすばませ、何かに耐えるように小さく震えていた。

『そんな寒いとこ、風邪引くよ』

後ろから呼びかけた私の声に、彼が応えることは無い。

箱の前に置かれているのは、額に収まった一枚の写真。

それは、黒いリボンをかけられた——私の、白黒の、笑顔。

§

人生の岐路に立つ、という言葉がある。

分かれ道のそれぞれは、全く違う場所に向かうかもしれないし、結局同じところに行き着くかもしれない。

一見、暗く険しそうだが、実は輝く場所に繋がっていることだってある。——もちろん、その逆も。

けれど、それは行ってみないと判らない。前もって知ることが出来るなら、みんなきつと、もつともつと幸せな日々を過ごすことが出来るだろう。

§

夕焼け、赤く染まった歩道。

色付き始めた街路樹の下、話す私たち。

立ち止まる。横断歩道。

渡ってしまえば、手を振ってさよならだ。

青に変わる信号。

少しでも長く一緒に居たくて、私は歩調を緩める。

彼は話すのに夢中。乙女心に気付かない。

どんどん遠ざかる背中。仕方なく、追いかけてようとして。

ほんの、一瞬。

軋む金属音。甲高い悲鳴。——ああ、これは私のか。

黒に侵されていく視界。私が最後に見たのは、振り返った彼の顔。

驚きと恐れと理不尽。

全部を混ぜ混ぜにしたような、哀しい表情をしていた。

§

道が右と左に分かれているとする。高校で習った数学によれば、私が右の道を選ぶ確率は、二分の一。

次の岐路。右を選ぶ確率はやっぱり二分の一。スタート地点から考えると、二乗して、四分の一。さらに次、右に行く。八分の一。

次も右。十六分の一。右。三十二分の一。六十四分の一……

私が今立つこの道は、たぐさんの『二分の一』で出来ている。

そのひとつでも欠けてたら、別の道に進んでいたかもしれない。

そのひとつでも欠けてくれたなら、別の道に進むことが出来たかもしれない。

気まぐれでもいい、他人に流されて、でもいい。もしも一度でも

別の道を選んでいたら。

もしも違う運命なら。もしも、もしも——

§

俯く彼の口から、吐きがひとつ。

「早紀……ごめん」

§

大好きだった。もう離れないって何度も思った。彼と出会えたこと。付き合えたこと。それだけで私はいつも満たされていた。

——そうだ。彼との出会い。それもやっぱり、たぐさんの『二分の一』で出来ている。

もしかしたら私は、彼と出会うその道を、とんでもない確率の中から見つけ出したのかもしれない。

§

ふわり、と私の体が浮いた。もう、ここには居られないらしい。

あの世にも、確率はあるのだろうか。神はサイコロを振らないと聞いたことがあるけれど。

「早紀……ごめん、早紀……」

遠ざかる背中に、大丈夫だよ、と声を掛ける。

だって、あなたと出会えたから。この道は私にとって一番のものに違いないから。だから、こんなゴールだったけど、もう絶対後悔なんかしないから。

私にとってこの運命は、試行も反復も期待値も。全部が全部関係ない、たった一つの確率だったから。

だから、悲しまないで。後悔しないで。『ごめん』なんて言わないで、ほら、いつもみたいに。

『愛してる』

§

見えない涙が一滴、ふわりと落ちて彼に届いた。ほのかな温かみに包まれて、彼はそれを逃さないようにぎゅっと抱きしめる。

もしも違う運命なら。

二人がこの温もりを知ること、無かったかもしれない。

「確率」本選Bブロック作品講評

1 P 0 6位 4ポイント

静かにふつふつとたぎってくる男の決意。

ラストの「やってやろうじゃねえか」が、すごくいい感じですぽりと心に落ちて、すがすがしい今週の読み初めでした。

イチオシフレーズ：「やってやろうじゃねえか」

2 我が人生で学んだこと 2位 21.5ポイント

彼女を待ちながら、という設定でしょうか。さいごの、それでも待ってしまっているほほえましさ、「当てにしない」と口では言いつつ、心の底ではこっそり当てにしている気分ときれいにシンクロしてきます。

日常の感覚をさくっと掬い上げ、うんうんそんな感じだよね、と読者の共感を誘ってくれるユーモラスな仕上がりでした。ヨッシーが予想以上に受けたのも勝因か。

金・銀・銅制覇、おめでとう！

イチオシフレーズ：「ヨッシーなんか当てにしない」(3票)

「こいつの半分は在庫処理でできている」でイチオシフレーズ大賞受賞です。**おめでとう！**

3 あま～いっ！ 10位 0ポイント

わははは。タイトルがみごとにオチにリンクしているところが、すてきです。

数字だけが確率じゃないんだぜ、という論点もナットクできましたが、比率と確率、概念が違うものだと思うので、そのあたりの仕分けが少し気になりました。

イチオシフレーズ：「だから、二人は幸せ100%」

4 五分の一の殺人 1位 30ポイント

甘さの次は激辛です。

すごい臨場感、迫真性。まるでほんとうにご当人の手記でも読んでいるかのような。

ていねいな調査のたまものでしょうか。すばらしかったです。

圧倒的に支持されての連覇、**おめでとう!!!**

イチオシフレーズ：「六月九日。僕は今日、五分の一の確率で殺人者となった。」(2票)

5 選ぶ 10位 0ポイント

問いかけ+答えの形がリズムカルに読めて、その具体例を踏まえて、さいごのまとめへという形も良かったのですが、ちょっと結論が唐突な感。

6 出会いの確率論 10位 0ポイント

必死さ、せつなく伝わってきます。
できれば東工大ネタは避けたかったけれど。
イチオシフレーズ：「彼女ができない！」

7 確率 8位 3ポイント

つらつら考えてみたけれど、よくわかんないや、という正直な気分が吐露されているのですが、でももう少し掘り下げたかった。確率と真実の違いって？

8 今日 - 6月9日 5位 6ポイント

がんばれニッポン。旬のネタですね。
ていねいに調べてまとめていただいたのですが、お題へのリンクがラストでムリヤリ、というところを工夫したかった。
イチオシフレーズ：「今日は四年に一度の人類最大の祭典が開催される日である。」

9 支配された世界 6位 4ポイント

運命論でサイコロに挑戦。さくさくと論理のくさびを打ち込んでくる歯切れの良さです。
ただ、起きたできごとをどうとらえるかは、主観の問題なので、こうした一方的な宣言だけでなく、少し読者を説得する姿勢もほしかった。

10 喫茶店の女達 4位 8ポイント

メタン続編。またまた、はじめていただきました。
フェイドアウトする彼のオロオロぶりが目に見えて爆笑です。
いやいやいやいや、笑ってばかりはいられません。理系のオノコたちよ、ちゃんと周囲の空気を読みつつ世渡りしましょうね、というアネゴのやさしい心づかい、しかと受けとってくださいませ。

イチオシフレーズ：「劣性遺伝」

11 もしも違う運命なら 3位 12.5ポイント

ツクリモノの悲劇って、ついそらぞらしくなりがちなのです

が、これはスゴイ。しっかりした筆力で、みごとに去りゆく者の悲しみを浮かび上がらせて、『愛してる』。ぐっと心に迫るせつないラストでした。

イチオシフレーズ：「早紀……ごめんな」「§」(こんなポイントが気に入った班もあるのですね、B-4班です)

12 十二年前の話 9位 1ポイント

タイトルに合わせてラストに置いたTAさんたちの心づかい。

猫かなあ、猫だろうなあ、猫耳じゃないよなあ～～。

正体が謎のままなのが、ちょっともどかしいけれど、フォントとレイアウトのインパクトで「運命」をコミカルに感じさせていただきました。